

令和7年度
運営に関する計画
(学校関係者評価・最終)



令和8年3月9日
大阪市立長谷川中学校

大阪市立長谷川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状

- 本校は、大阪市こども相談センター(中央・南部・北部)等から措置され、児童心理治療施設(大阪市立長谷川羽曳野学園)に入園している生徒のみが通学している学校である。
- 生徒は、全員これまで厳しい家庭状況にあり、その成育歴から見ても家庭教育が十分になされておらず、環境を起因とする社会的・知的な発達が遅滞傾向にある。また、情緒的にも不安定な生徒がほとんどである。
- 生徒は、本校への転入までに家庭・学校での養育・学習・運動の機会が十分に習得できておらず、このため、学力的・体力的に極めて低位で厳しい状況にある。

課題

道徳的判断力や社会性・協調性などの面での課題もある。そのような現状から、将来の自立に向け、自尊感情の醸成、基礎的・基本的学力の定着とともに、基本的生活習慣の育成と自ら学ぶ意欲の育成に力を入れ、たくましく生き抜く子を育てるために、大阪市立長谷川羽曳野学園と一緒に情報共有・行動連携を進め、きめ細かな指導を続けていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
⇒結果 12月調査が69.2%で、目標を10.8%下回った。
- 令和7年度の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
⇒結果 0%(SSR設置支援事業にかかる選定基準表より)で、達成した。
- 令和7年度の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
⇒不登校生徒 該当者なし(SSR設置支援事業にかかる選定基準表より)で、改善できた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
⇒結果 12月調査が46.2%で、目標を33.8%下回った。
- 令和7年度の中学校チャレンジテストや大阪市英語力調査に対しては、本校は児童心理治療施設から通う生徒のみが在籍するため、生徒数が全学年で1名~6名であり、さらに措置入所で入替りもあるため、母数で割る平均的な算出は意味をなさない。そのため、全生徒の経年比較において正答を1Pでも上回ることを目標とする。
⇒結果
3年チャレンジテスト：社15.5P数12.0P英1.0P上回り、国21.0P理0.5P下回った。
2年チャレンジテスト：理1P上回り、国5P社13.2P数16.2P英10P下回った。
1年チャレンジテスト：国12.5P数1.8P英13.8P下回った。
3年GTEC調査：R7(286.0)、R6(230.2)で昨年度より55.8P上回った。

○令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。

⇒結果 12月校内調査が46.2%で、目標を13.8%下回った。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)。

⇒結果 11月学習者用端末月間活用率 94.4%で19.6%上回った。

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%にする。

⇒結果 11月時点が92.8%で、目標を32.8%上回った。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

⇒結果 12月調査が69.2%で、目標を10.8%下回った。

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

⇒結果 0%(SSR設置支援事業にかかる選定基準表より)で、達成した。

○ストレスを感じやすい生徒のために、PBS（ポジティブ行動支援）を指導の軸に置き、学校全体で肯定的な行動を積極的に支援する。

⇒結果 12月校内調査「先生はがんばったらほめてくれますか」の肯定的回答が100%で、積極的に支援できた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

⇒結果 12月調査が46.2%で、目標を33.8%下回った。

○中学校チャレンジテストや大阪市英語力調査に対しては、本校は児童心理治療施設からの生徒のみが通学するため生徒数が全学年で1名～6名であり、さらに措置入所で入替りもあるため、母数で割る平均的な算出は意味をなさない。そのため、全生徒の経年比較において正答を1Pでも上回ることを目標とする。 ⇒結果

3年チャレンジテスト：社15.5P 数12.0P 英1.0P 上回り、国21.0P 理0.5P 下回った。

2年チャレンジテスト：理1P 上回り、国5P 社13.2P 数16.2P 英10P 下回った。

1年チャレンジテスト：国12.5P 数1.8P 英13.8P 下回った。

3年GTEC調査：R7(286.0)、R6(230.2)で昨年度より55.8P上回った。

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。

⇒結果 12月調査が46.2%で、目標を13.8%下回った。

○各教科等における言語活動の充実を図りながら、図書室を効果的に利用する。

(年度末の校内調査において、「読書をすることは好き」と肯定的回答をする生徒の割合を80%にする。)

⇒結果 12月調査が92.3%で、目標を12.3%上回った。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)。

⇒結果 11月学習者用端末月間活用率94.4%で、19.6%上回った。

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を80%以上にする。

⇒結果 11月時点が92.8%で、目標を32.8%上回った。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・「いじめは絶対にいけないと思いますか」は、1年と本校小学校の結果が80%を上回っていた。2年は未達成であるが7月より40%向上している。「多様性の包摂」の視点から学校環境の再構築を行い、8月末より2年の学級担任を変更し、1年の教室を小学6年の隣に移動した。その結果、毎日の営みの中で「組織的な同じアプローチ」ができるよう教職員が協働して支援体制を調べてきた。また、教員スキルの中で生徒との距離感、経験知、腫物扱い、指導の強弱、効果のない介入、物の貸し借り等、指導の段差を改善するようそれぞれの教職員が試行錯誤してきた。また、どの生徒にも等しい対応ができるように、教科担任T1と学習サポータT2の「チーム学校」体制を教職員組織に定着できた。
- ・不登校生徒を生み出さないように学園との日常の連携を密にし、学園のアセスメントに基づきトラウマを持つ生徒の理解に努め、教職員に支援の方針を徹底し、生徒のリマインダーに触れないような教職員の個々のアプローチでスキルを高められた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・「学級の生徒との間で話し合う活動を…」で1年は66.7%で達成できている。2・3年の10月よりカリキュラムマネジメントによりICTタイムを設定し、キーボード入力やネット検索など、全体でGIGA端末の活用に取り組んできた。1月より探究学習をスタートさせ、9教科のセクトがない探究カリキュラムの中で、教員の協働性と生徒自らが学ぶ力を高め、情報活用能力の抜本的向上に結びついている。
- ・「運動が好きですか」で、肯定的な回答は76.9%で運動が好きな傾向にある。昼休みにサッカーをする生徒も多く、体を動かすことに強みに感じている生徒は比較的多い。
- ・日常生活の中で生徒にとって、読書は大切な情報資源であり、自ら学ぶ力を高める大切なツールである。生徒は読書を続けることにより国語の読む力が「強み」になっている。
- ・1月からの探究学習により、これまでの与えられる授業に、主体的に学ぶ授業が加わり、生徒の学習意欲・規律や教員間の情報共有に大きな変化が表れてきている。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・4月当初GIGA端末の活用は、ゲームをする、決められた時間に終了できないなど、生徒の課題に教員組織で対応できておらず活用率も0%であった。8月末より「心の天気」のルーティン化やICTタイムをカリキュラムの中に設定することにより、現在、生徒たちは学習の大切なツールとして活用できている。GIGA端末活用率1月100%の数値向上の背景に、教員と生徒との信頼関係を基盤として、見通しを持たせ、組織的同じ「面のアプローチ」による組織体制があり、安心して学習できるようになったことが大きいと考える。
- ・4月当初は、一部の教員によっては遅くまで残らざるを得ない状況が続いていた。6月に業務分担をめざすチーム学校の組織体制の方針を示し、8月末以降体制が定着した結果、一人の教員が業務を抱え込むことや偏ることがなくなり、現在は全教職員の平均時間外勤務が30時間以内になっている。

(様式2)

大阪市立長谷川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。(施策1-1-1)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(施策1-2-7)</p> <p>本校の独自目標</p> <p>○生徒全体の指導方針としてPBS(ポジティブ)行動支援を取り入れ、肯定的行動のある学校を創造する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめへの対応:ピア・サポートの活動を通じて、自分や他人を大切に する。(適切な言葉づかい)等、違いを理解し互いに支えられる集団を造 ることでいじめ0を目指す。(生活指導健康教育部)</p> <hr/> <p>指標 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけ ないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する 生徒の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>防災・減災教育の徹底: 安全教育指導や避難訓練を実施する。 (生活指導健康教育部)</p> <hr/> <p>指標 計画に基づいて年4回以上実践する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>キャリア教育の充実: 職場体験(見学)、キャリアパスポートを活用し自ら の進路について考え、自立した生徒を育てる。(進路委員会)</p> <hr/> <p>指標 年度末の校内調査において、自分の進路について真剣に考えている生 徒を3年生までに80パーセント以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】（生活指導健康教育部）

いじめアンケートの結果から、重大ないじめ事案は確認されず、学園と連携した「いじめ対策委員会」を継続的に実施することで、未然防止に向けた体制づくりは一定の成果を上げている。また、他者を意識した関りが見られる場面も増えてきた。一方で、生徒間の言葉づかいや感情的な発言については依然として課題があり、お互いを尊重する姿勢の定着には継続した指導が必要である。今後も日常的な関りを大切にしながら、安心して過ごせる集団づくりを進めていく。

取組内容②【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】（生活指導健康教育部）

年間計画に基づき、防災・減災に関する安全教育および避難訓練を計画通り実施し、目標指数を達成することができた。各訓練において生徒は目的を理解し、落ち着いて行動する姿が見られるなど、防災意識の向上がうかがえた。今後も継続的な取り組みを通して、非日常的に自ら考え行動できる力の定着を図っていききたい。

取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】（進路委員会）

職場体験については、実施が難しいことから校内のキャリア教育に置き換える。キャリアパスポートで自らの進路目標を立て、そのために必要な行動や考え方について書くことができている生徒がほとんどである。しかし、実行に至らないことが多々ある。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】（生活指導健康教育部）

生徒一人一人が相手の気持ちを考えた行動をとれるよう、日常の学校生活の中で言葉づかいや関わり方に重点を置いた指導を継続する。安心して過ごせる学級・集団づくりを目指し、未然防止の視点を大切にしたい取り組みを進めていく。

取組内容②【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】（生活指導健康教育部）

防災・減災教育および避難訓練を引き続き計画的に実施し、状況に応じて自ら判断し行動できる力の育成を目指すとともに、訓練内容の工夫を通して防災意識のさらなる向上を図る。

取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】（進路委員会）

キャリアパスポートの取り組みをすることで、行事前の目標の確認、行事後のふりかえりを通じて自ら考えさせ、自立していく姿勢をつくることに努めた。

(様式2)

大阪市立 長谷川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (施策4-2-13)</p> <p>○中学校チャレンジテストや大阪市英語力調査に対しては、本校は児童心理治療施設からの生徒のみが通学するため生徒数が全学年で1名~6名であり、さらに短期入所に入れ替わりもあるため、母数で割る平均的な算出は意味をなさない。そのため、全生徒の経年比較において正答を1Pでも上回ることを目標とする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。(施策5-1-16)</p> <p>○各教科等における言語活動の充実を図りながら、図書室を効果的に利用する。(年度末の校内調査において、「読書をすることは好き」と肯定的回答をする生徒の割合を80%にする。)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】(教務部) 言語活動・表現力等の育成、主体的・対話的で深い学びの推進： 少人数の学習形態を生かし個に応じた指導を実施し、学習効率を高める。 学力向上に関する取り組みを教務部から提案・実施し、生徒の理解に努める。</p> <p>指標 中学校チャレンジテストで、全生徒の経年比較において正答を1Pでも上回る</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4、健やかな体の育成】(教務部・図書委員会) 読書活動の充実：朝読書や授業での図書貸し出し、昼休みの図書開放などを通じて、図書室を活用する。</p> <p>指標 年度末の校内調査において、「読書をすることは好き」と肯定的回答をする生徒の割合を80%にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4、健やかな体の育成】(保健体育科・生活指導健康教育部) 体力・運動能力向上のための取り組みの推進：記録用紙を活用し、生徒自身に成長を気付かせ、少しでもできたという実感を持たせる。</p> <p>指標 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。</p>	B

<p>取組内容④【基本的な方向 5、健康教育・食育の推進】（生活指導健康教育部） 健康教育：自らの身体や健康に対する関心を高めるため、年 3 回発育測定を実施する。毎月の保健だよりに加え、検診や行事前、また感染状況に応じ臨時号を発行し、生徒や保護者に対して健康意識を促進するため情報を提供していく。 食育：1 月の全国学校給食週間に合わせ、食に関する保健指導等を実施する。</p>	B
<p>指標 学校アンケートで「健康的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき等）を心がけていますか」の項目について肯定的に答えた生徒の割合を 80%以上にする。</p>	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】（教務部） 夏季セミナーは予定通り実施できた。さらにテスト前学習や、個に応じた指導で学習意欲を高めることに努めた。</p> <p>取組内容②【基本的な方向 4、健やかな体の育成】（教務部・図書委員会） 集会がある日を除いて、毎日の朝読書を実施した。 毎日、昼休みの図書室活動を実施した。</p> <p>取組内容③【基本的な方向 4、健やかな体の育成】（保健体育科・生活指導健康教育部） 体力テストに加え、日常的な授業の中でも持久走の活動において記録用紙を活用し、生徒が自身の変化や成長を振り返る機会を設けることができた。今後は、他の運動領域にも活用を広げ、継続的な自己評価が行える取り組みを進めていきたい。</p> <p>取組内容④【基本的な方向 5、健康教育・食育の推進】（生活指導健康教育部） 年 3 回の発育測定やほげんだより（臨時号含め 25 号）の発行により、生徒が自身の成長や健康に関心を持つ機会を増やし、健康意識の向上を図った。 学校給食週間にあわせ、食に関する出前授業（雪印メグミルク株式会社）を実施した。また、1 月 29 日には学園栄養士および調理員へ日頃の感謝を伝える機会を設けることで食への関心と感謝の気持ちを育むことができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】（教務部） 今年度と同じく個に応じた指導を続けていく。</p> <p>取組内容②【基本的な方向 4、健やかな体の育成】（教務部・図書委員会） 本校は読書をする生徒の割合が多いので、来年度も引き続き取り組みを進めていく。</p> <p>取組内容③【基本的な方向 4、健やかな体の育成】（保健体育科・生活指導健康教育部） 記録用紙の活用を持久走以外の運動領域にも広げ、生徒が継続的に自身の成長を実感できるよう、日常的な授業への定着を図る。</p> <p>取組内容④【基本的な方向 5、健康教育・食育の推進】（生活指導健康教育部） 指標とした 12 月実施の学校アンケートにおいて、「健康的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき等）を心がけていますか」という設問に対する肯定的回答率は 76.9%で目標の 80%には至らなかったが、7 月実施時の 69.2%からは、7.7ポイント向上し、健康教育・保健指導の成果がみられた。 次年度は、肯定的回答率 80%以上の安定的達成を目標に、定期的な実態把握と、生徒が生活習慣を振り返る機会を設け、継続的・組織的に取組を推進していく。</p>	

(様式2)

大阪市立 長谷川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)。 ○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学びと共同的な学びを実現： 授業日において学習者用端末を毎日使用し、スクールライフノートの活用により生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応する。(学校行事等 ICT 活用が適さない日を除き毎日活用する)(教務部・ICT担当)	B
指標 授業における学習者用端末の使用率を80%以上にする	
取組内容② 【基本的な方6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 スクールライフノートの活用した、生徒理解の推進：1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学びと共同的な学びを実現する。(教務部・ICT担当)	B
指標 学校行事等 ICT 活用が適さない日を除き毎日活用する	
取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革の推進： ②長時間勤務の解消に向けた意識醸成を図るため、退勤目標時刻を設定するとともに、時間外勤務時間の状況について、毎月教職員に個別に通知する ③夏季休業及び冬季休業中の学校閉庁日を、年間5日以上設定する。(管理職)	B
指標 「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の基準を満たす教員を100%にする	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

(教務部・ICT担当)

毎朝「こころの天気」を入力する時間を設け、生徒の心の状態などを可視化できるようにした。

取組内容②【基本的な方6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

(教務部・ICT担当)

タブレット端末を使用した個別自由進度学習として、Navimaを活用した。

1月より始めた探究学習では、まず生徒にテーマを決めさせ、タブレット端末を用いて、パワーポイントで調べ、まとめさせて発表させた。

取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(管理職)

夏季休業中の学校閉庁日を8/12～8/15の4日間設定した。冬季休業中は2日間増やし、学校閉庁日を12/25～12/26と1/5～1/6の4日間を設定した。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

(教務部・ICT担当)

1人1台端末を毎日使用するため、ルールを守り、適切に生徒が使用できるルール作りとその徹底を図る必要がある。

取組内容②【基本的な方6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

(教務部・ICT担当)

今年度取り組んだ探究学習を、今後もタブレット端末を活用し、進めていきたい。

取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(管理職)

次年度は閉庁日に加えて、職員室などの環境整備を行っていく。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立長谷川小中学校 学校協議会

1 総括についての評価・2 年度目標ごとの評価

- ・新しく開始した「探究学習」により、従来の受け身の授業から主体的に学ぶ姿勢へと片が見られ、生徒の学習意欲や情報活用能力の向上に期待する。
- ・運動を「好き」と回答する生徒が多く、昼休みにサッカーを楽しむなど、体を動かすことに強みを持つ生徒が多くなることに期待する。
- ・P B S(ポジティブ行動支援)の成果により、小学校・中学校ともに「先生はがんばったらほめてくれますか」に対し100%の生徒が肯定的に回答しており、生徒の自尊感情を高める指導が浸透している。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・不足している教職員の補充を積極的に進めてほしい。
- ・探究学習の様子などをみて、自ら学ぶことを選択できているのがいいと思った。
- ・もっと、児童生徒の様子が具体的にわかるとよいと思う。